

— 開催にあたって —

山形県の西部に位置する庄内地方は、日本海を流れる暖流の影響を受け、内陸地方とは異なる多彩な自然環境をもっています。地質的な成り立ちや棲んでいた生き物、人と自然との関わりなどについての資料が数多く残されているのもこの地方の特色といえるのではないのでしょうか。

本展では、地学や考古資料、先人の残した図譜や標本などの多くの貴重な資料をもとに、庄内の自然環境の移り変わりをそれぞれの時代ごとに紹介します。

この展示会を開催するにあたり、ご協力を賜りました関係機関・各位に厚く御礼を申し上げます。

平成20年9月

山形県立博物館長 阿部 寛

— 関連行事 —

(1) 特別展記念講演会

演 題：— 新種がぞろぞろ —
庄内地方の植物の特色とその地史的背景を探る

講 師：土門 尚三（フロラ山形 副会長）

日 時：9月6日 午後1時30分より

演 題：庄内地方の大地とその成り立ち
— 庄内の化石が語る生き立ちと古環境 —

講 師：植松芳平（生涯学習施設 里仁館 館長）

日 時：10月4日 午後1時30分より

(2) ギャラリートーク

展示会担当が会場で解説いたします。

日 時：9月7日・11月3日 午後1時30分より



山形県立博物館

〒990-0826 山形市霞城町1-8
Tel:023-645-1111 Fax:023-645-1112

平成20年度 山形県立博物館 特別展

庄内の自然

— 大地と生き物の移り変わり —



<開催期間>

平成20年9月6日～11月23日まで
(10月18日～10月27日まで燻蒸のため休館します)

— 庄内の大地の歴史と化石 —

北・東・南の三方を山々に囲まれ、西に長大な砂丘を持つ庄内平野はどのようにできたのでしょうか。庄内の大地の生い立ちについて化石を取り上げて紹介します。

県内では庄内地方にのみ産出される石炭や石油についても紹介します。



▲ エゾイタヤの翼果

— 先史のくらしと生き物 —

庄内地方の遺跡から出土した動物遺骸の骨や狩猟の道具、煮炊き用の土器などから往時の人々の暮らしや棲んでいた生き物を紹介します。



▲ 八森遺跡 有肩尖頭器 (酒田市教育委員会 蔵)

— 庄内砂丘と海岸林 —

長さ約34km、面積約55km²で、長さは日本一の庄内砂丘は、クロマツなどを中心とした防風林に覆われています。美しい景観を守ってきた防風林の歴史を先人たちの業績とともに紹介します。



▲ 曾根原家名子十四名松植付之圖 (曾根原東 蔵)

— 図譜に描かれた動物 —

江戸時代後期から明治にかけての庄内地方に棲んでいた生き物が精密な彩色図として残されています。図譜を描いた松森胤保と中村正雄の二人の博物学者と彼らの残した彩色図から当時の庄内の自然を読み解いていきます。



▲ 『両羽博物図譜』 (酒田市立光丘文庫 蔵)

— トピック“庄内の生き物” —

今回の展示会の準備の中で調査を進めていくうちに明らかになった生き物の生態や庄内地方の特色を良く表している生き物たちを紹介します。



▲ アメリカザリガニ標本 (山形県立鶴岡南高等学校 蔵)



▲ イソコモリグモ